

# 永泉

日本基督教団瀬戸永泉教会 会報No.253 2021年4月4日発行

## 巻頭説教 「神への信頼」 牧師 横山厚志

さて、昼の十二時に、全地は暗くなり、それが三時まで続いた。三時ごろ、イエスは大声で叫ばれた。「エリ、エリ、レマ、サバクタニ。」これは、「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」という意味である。(マタイ 27 : 45~46)

教会暦は今、受難節に入っています。イエス様の苦しみを覚える時です。イエス様の受難を通して、私たちは何を学ぶことができるでしょうか。十字架上の言葉から考えてみたいと考えます。

2月に、東北地方で大きな地震がありました。あの東日本大震災以来の規模の地震でした。東北地方の人々はあの日を思い出し、辛いことを思い出しています。東日本大震災から10年を迎えました。皆さんは、あの時を覚えているでしょうか。私は当時、神奈川にいて、テレビを通して見えてくる津波の映像を見ていました。映画ではないかと疑うような、現実とは思えないものでした。でも、現実でした。あの時から、何度も東北地方を訪ねました。いろいろな活動をさせていただきました。活動しながら、現地の人たちのあの日の話を聞くことができました。突然、話が始まり、ただ聞くしかできませんでした。

私は主に、宮城県石巻市や女川町で活動させていただきました。やがて震災を語る語り部と言われる方々と多く出会いました。あの辛い体験を話すことは大変ではないかと思いました。でも、それらの方々と話すうちに、次のようなことを教えられました。語ることは辛いことですが、語ることによって、前に進むことができるようになったと言うのです。また、話すことができない人がたくさんいる。その人たちは、自分の苦しみを心の奥にしまっている。口を開いて話すことができない。そのような人が多くいることを忘れないで欲しいと言うことでした。

人が本当に辛いことに出会った時、どう反応していけばいいのかわからないのでしょうか。その苦しみを、自分の奥にしまってしまうのです。表面は苦しみが無いように見えるがそうではなくて、苦しいと言うことができないでいると

言うことでした。人はいろいろな苦しみを受けます。それを自分の口で誰かに「苦しい、助けて」と言うことができれば、立ち上がることができるのです。

今日、読んだ聖書の箇所ですが、イエス様の十字架の場面です。「エリ、エリ、レマ、サバクタニ」という言葉、これはイエス様が使っていたアラム語です。その意味は、「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか。」と言うことです。十字架にかけられたイエス様は、死を前にして苦しんでいます。神様に見捨てられた思いになっています。でも、それはイエス様の神に対する信頼の言葉です。「神よ、どうしてわたしを見捨てられるのですか。本当に苦しいのです。助けてください。」と、本当に信頼し、叫んでいるのです。自分の本当の苦しみを、神に、独り子であるイエス様は訴えているのです。ここに神への信頼があります。

私たちの人生はいろいろなことが起ってきます。うれしいことや楽しいことがあり、反対に、悲しいこと、とても辛いことなどがあります。私たちが、本当の苦しみを受けると、どう対応していけばよいかかわからず、自分の中に隠してしまうのです。でも、苦しみのものは変わらないどころか、更に重くなっていくのです。心の重荷を軽くしていきたいです。その辛いことを、1人で負わないで、誰かに、「苦しい、助けてほしい、聞いて欲しい。」と言うことができるのでしょうか。自分の心の一番奥に隠しているのではないのでしょうか。神に、その苦しみを叫んでください。訴えてください。そうすれば、苦しみのものは変わりませんが、きっと、その後で、新しい力を得ることができるのです。イエス様は神を信頼していました。だから、十字架の上で、あのような言葉を発することができたのです。

## イースターの思い出

イースターの思い出 M・Y姉

イースターで思い出することは、神様から計り知れない恵みをいただいた洗礼式、卵の絵付け、卵探し、絵本読み、次男が大きくなり卵を探す側から隠す側になったことなどがあります。その中でも、5人の方と洗礼の恵みを受けた初めてのイースターは思い出深いです。イースターの朝、前日まで元気だった長男が熱を出し、病院に行った方がいいか、家で様子を見るか、長男を一人家に残し教会に行くか、洗礼式を辞めるか、悩みました。とりあえず主人と次男は先に教会に行ってもらい、長男の様子をみました。神様の愛に応えるには受洗しかないと思ひ受洗を希望し迎えた洗礼式の日なのに、迷いました。神様がアブラハムを試されイサクを献げ物としてささげなさいという聖書箇所を思い出しました。また洗礼に至るまでの神様との出会い、祈禱会の参加や洗礼準備会、信仰の先輩方からの支えや励ましをいただいたことを思うと教会に行こうという気持ちに固まりました。

礼拝が始まり讃美歌が流れ、涙が出てきました。礼拝中も洗礼式中也涙が止まらず泣けて仕方がなく一緒に洗礼を受けた隣の方に大丈夫かと心配されるほど抑えきれず泣いていました。5人の方と共に受洗の恵みを受け無事に礼拝が終わり涙も止まり、心に溜まっていたものを洗い流していただいたと思ひました。よく泣いたイースターでした。

今回イースターを振り返る機会を与えていただき感謝です。今年で9回目のイースターです。今までいろんな試練があったけれど恵みと喜びもたくさん与えていただきました。これからも更に難しい選択や試練があると思いますが既にこの世に勝っているイエス様が共にいてくださる。ヨハネによる福音書16章33節「あなた方には世で苦難がある。しかし勇気を出しなさい。わたしは既に世に勝っている。」いつも神様に心を向け聖書の言葉を思い出し信仰が深められるよう歩んで行けたらと思ひます。



## 「イースターの思い出」 S・K姉

主の御名を讃美します。

毎年、イースターが近づくと幼い頃の記憶が蘇ります。私は小さい時、父に連れられ教会へ通っていました。といっても家から遠いこともあり、朝早くからの教会学校には間に合わず、いつも大人が守る礼拝の中で過ごしていました。ある時、教会へ行くと、水色、黄色、ピンク色と淡い色で染まった卵が藤の籠いっぱい積まれていました。初めて目にする色とりどりのイースターエッグ。私は目を輝かせ、心の中で大きな歓声を上げていました。帰り際、牧師夫人から聖句つきのカードと一緒にイースターエッグを受け取った時は、ただただ嬉しく、帰る道、何度もカバンの中からは取り出しては「教会ってなんて不思議な所なんだろう」と思ひながらワクワクした気持ちで眺めていた事を楽しい思い出のひとつとして鮮明に覚えています。

二千年前、イエス様は私たちの罪の贖いのために十字架の苦しみを受け、そして三日後に復活されました。この「主の復活の出来事」は時を経た今でも、そしてこれからも色褪せることなく神様の深い愛と共に、驚きと喜びを私たち一人一人に与えて下さいます。

それは、生命誕生の象徴でもあるイースターエッグからも感じる事ができるでしょう。今年もまた、イースターを迎える恵みに感謝したいと思ひます。



## 建築委員会からの報告

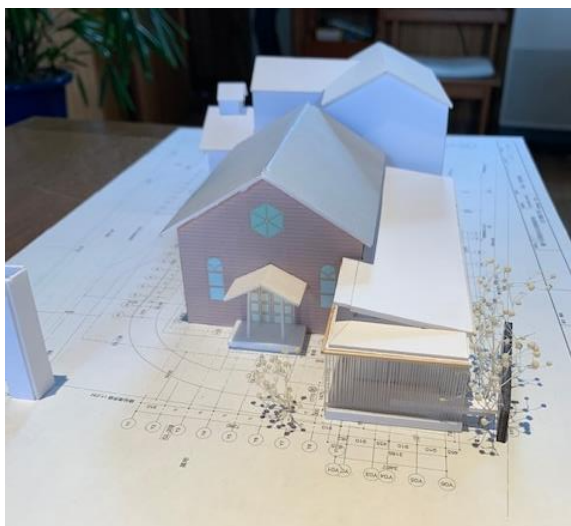
### いよいよ始まる礼拝堂増改築

○・N 長老

2015年6月より建築準備委員会として始まり2018年4月より建築委員会として礼拝堂建築について具体的に動き始めました。

多くの検討の後、登録文化財としての現礼拝堂の耐震化を行い南側に受付スペースを含めてCS館につながる棟の増築を行う増改築案が柳澤力建築設計士の協力のもとに出来上がりました。道路からの緩やかなスロープ、バリアフリーとそのまま入れる礼拝堂、広い受付スペース、車椅子で入れるトイレの設置などで、お年寄りから子育て世代まで幅広く参加しやすい教会形成を夢見てきました。

新型コロナウイルス感染が広がる中でも教会員の希望とそれぞれの分科会の働きを受けていよいよ2021年度イースターの後から工事が着工し年度末には完成予定です。この建築計画が主によって守られ教会員一人一人の願いと祈りと献金が捧げられここまで来られたことに感謝です。これで終わりではなく新しい歩みの始まりです。楽しみに完成を待ち、次の時代への教会を造っていきましょう。



## 讃美歌あれこれ

T・M姉

キリスト教は目に見える像を拝みません。

私は高校生の時に教会に導かれ讃美歌の持つ魅力にひかれました。

歌詞とメロディーは見えない神さまを心の中で想像させてくれます。牧師先生の説教は難しく讃美歌を歌う時が嬉しかったのを覚えています。

そんな私が金城学院大学のクワイア(聖歌隊)の指導者とされた事は恵みだったのでしょか?

礼拝の賛美の難しさをつくづく感じました。誇ってはいけませんが貧しい用意のされていない歌では神さまに申しわけない。また美しいメロディーに酔って言葉が届かないと賛美ではない。

まず神さまからいただいた自分の体が楽器となるようボイストレーニングをしました。そして讃美歌の歌詞の背景を伝えました。

毎年、メンバーが変わりますがお互い思いやりを持つ仲間として巣立っています。

教会のクワイアは絶対必要という訳ではないでしょう。でも練習をし、その礼拝に備えるということが大切です。

又、歌うことが奉仕となれば生きる力になります。

これからも永泉クワイアを祈りのなかで育てていただきたいです。



## 長老の証

### 長老の務め

M・A長老

長老とは、どんな務めがあるのか、実は知られているようで知られていないのではないのでしょうか。改めて、ご紹介してみたいと思います。もちろん、教会によってそれぞれ違いがありますので、あくまでも瀬戸永泉教会の場合です。

一番よく知られているのは、礼拝の司式や受付でしょう。教会が一番大切にしなければならないのは、礼拝を行うことです。礼拝を執り行う司式、礼拝に集う人を迎える受付、聖餐式の準備と配餐を務めます。礼拝前に、祈禱会を持ちます。これまで、色々な経験を通して、礼拝に与ることができるということは、当たり前でなく神様の恵みと祝福と招きがあってこそだと思っております。礼拝前の祈禱会では、毎回、その思いを新たにさせられるときです。

次に、書記と会計の務めがあります。書記は、総会と長老会の議事を記録します。選挙や総会での決議に必要なため、現住陪餐会員の名簿や礼拝出席を管理し、教団への報告を行います。会計は、教会の資産と収入支出を管理します。献金の集計から牧師の謝儀や税金、保険の手続き、教区への負担金の支払い等を行い、その報告書の作成を行います。

書記や会計以外の長老も、各委員会のとりまとめや長老会での報告、議決を行います。

とても多くの事務があり、疲弊してしまうこともあります。神様の御計画に参加しているという、とても大きな恵みの中にあります。聖霊の御力と教会員の皆様のお祈りに支えられて、分不相応な務めを何とか果たせていることに感謝します。



## 聖書豆知識

### 「レントの過ごし方」

小椋 実央牧師

プロテスタント教会のイースターの祝い方はそんなに大差がないように思う。まず前日に卵をゆでる。もしくは卵カプセルにお菓子をつめる。当日朝は卵を隠して、子供たちがエッグハント。大人は帰る時にいただいて自分で食べるもよし。プレゼントするもよし。そんな感じで慌ただしいイースターの日が終わる。

一方でレントの過ごし方はだいぶ違う。私が神学校時代に在籍していた教会はレントになると40日分の祈りの冊子が配られる。受難週には月曜日から木曜日まで朝の5時から早天祈禱会。木曜日の夜は洗足木曜日を記念した聖餐礼拝。金曜日はイエスさまが十字架におかかりになった9時に受難日の記念礼拝。へとへとになった頃にイースターがやってくる。神学校の友人たちも概ね似たような感じだった。

瀬戸永泉では受難週の行事は特にない。そのかわり長津先生か山畑先生の頃には断食の習慣があったらしい。らしいというのは私自身は直接教わったわけではなく、数人の方から伝え聞いただけである。コーヒーや甘い物を断って、そのぶん献金をするのだそうだ。教会史のかなり早い段階から断食の習慣はあったし、カトリック教会では部分的な断食を勧めていたりもする。祈禱会はしないけど断食(献金)はする、というのはなかなか的を得ているかもしれない。今は牧師となっている友人たちがそれぞれの教会でどんなレントを過ごしているのか、改めて聞いてみたいと思う。

### ＝編集後記＝

イースター、おめでとうございます。新しい年度が始まりました。今年も新型コロナウイルスの感染防止のため愛餐会も中止になりましたが、イースターを迎える喜びを心にとめ、希望を持って歩いていきたいものです。教会建築は具体的に工事に入っていきます。引き続き進捗状況など報告していきます。どんな状況でも希望があります。主の導きを信じて御心を待ちましょう。今回も原稿お願いしました方々、ありがとうございました。アーメン。 K・R長老

日本キリスト教団 瀬戸永泉教会

牧師 横山 厚志・小椋 実央

〒489-0822 瀬戸市杉塚町5 電話、FAX: 0561-82-2314

ホームページ: [瀬戸永泉教会](#) で検索または⇒

